

かながわトラスト緑地・ヤマユリ自生地再生チャレンジ

『かなユリ・チャレンジ』に参加して ～「いのち」の尊さを学ぶ～

株式会社 研進 代表取締役 出縄貴史



進和学園「どんぐりハウス」～植樹用の苗木を栽培

進和学園「いのちの森づくり」プロジェクト

社会福祉法人進和学園(平塚市)は、主に知的障害のある方々の自立・就労支援及び生活介護を担う福祉施設です。現在、約500名の皆様にご利用頂いています。私が従事する(株)研進は、進和学園の営業窓口会社として、本田技研工業(株)様より請け負う自動車部品の組立作業を中心に仕事を仲介させて頂いています。

経済環境の変化に伴い、作業種の多角化を進めています。その一つに「いのちの森づくり」があります。故 宮脇昭先生(横浜国大名誉教授)が提唱された「自然の森」を再生する取り組みで、どんぐりや木の実を集めて苗木を育て、各所に植樹を行うものです。今年16年目となりますが、進和学園及び連携福祉施設(「どんぐりプラザーズ」と称します)が提供した苗木は、累計30万本を超えています。多くの皆様に支えて頂き、進和学園の看板プロジェクトに成長しています。かながわトラストみどり財団とは、赤ちゃんの誕生を祝して植樹する「成長の森」事業における連携をはじめ、大変お世話になっています。

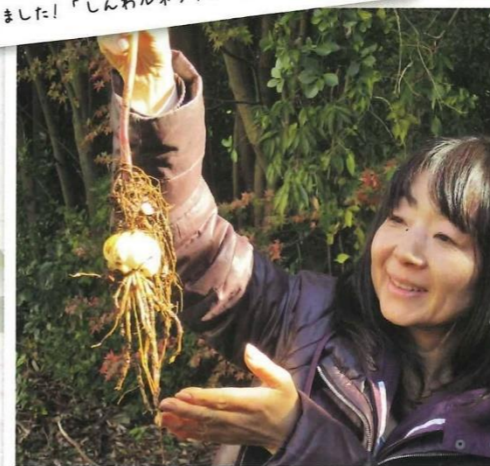
「津久井やまゆり園」事件と 「かなユリ・チャレンジ」

財団とのご縁は、2017年11月、新たな連携に発展しました。それが、「かなユリ・チャレンジ」です。トラスト緑地に細々と自生しているヤマユリを育て増やそうという試みです。本プロジェクトは、財団の会員から事務局への一通のお便りが契機となっています。2016年7月26日に起きた「津久井やまゆり園」での悲惨な事件(相模原障害者施設殺傷事件)を受け、ご自身も障害のあるお子様(45才)の将来を案ずるお母様(80才)から、昔は沢山見られた神奈川県の花「ヤマユリ」を増やすことで、悲劇を悼み人々の心の癒しとして頂きたいというご提言に基づくものでした。

福祉施設で19名もの尊い命が奪われたショッキングな事件は、社会に混乱をもたらしました。人の命を殺める行為は、あってはならない犯罪。しかし、この事件は、簡単に割り切れぬ問題を抱えていました。派生的に「生きるに値しない生命はあるのか」という根源的な問いを突き付けたのです。私達が、被告男性の言葉に戸惑ったのは、社会に、そのような類似する考え方が潜んでいることを知っていたからでした。被告人の言動は間違っています。しかし、このテーマは深く複雑です。障害者を巡る偏見や差別は、現実として根深く存在しているのですから…。



ヤマユリが咲きました! 「しんわルネッサンス」にて 2019年7月



ヤマユリの球根掘出し 2019年12月



種子からの発芽 2019年4月

て来ましたが、これが、あの太輪の花を咲かせるヤマユリとは信じられない可憐さでした。

栽培の過程では、ピンチもありました。2020年初夏、アオバハゴロモ(害虫)の幼虫が付着し、蕾に穴が空いてしま

たのです。難を免れた蕾は、見事な花を咲かせました。白地に黄色の帯、赤い斑点と朱色の雄しべがアクセントとなる華やかな姿に芳醇な香りを楽しみました。そして、穴の開いた蕾も花卉の半分が縮れてしまう開花不良ながらも花を咲かせたのです。本来、不良が見込めた段階で間引くのが定石ですが、そのまま見届けることにしました。「津久井やまゆり園」事件と殆ど同時期に咲いたヤマユリ、とりわけ、開花不良の一輪は、悲しい事件への哀悼と一縷の願いを込めて、懸命に花を咲かせようと頑張っているようで感動を覚えました。命の尊さを教えてくれているように感じたのです。

2020年12月2日、トラスト緑地にて、私達が3年間育てて大きくした球根及び種子から栽培した小球根の返還式が行われました。元々、同緑地で採取したものであり、ヤマユリの「里帰り」が実現したことを嬉しく思います。

助成期間は終わりましたが、財団から球根を新たに分けて頂き、今も栽培を続けています。これからも、ヤマユリの花に重ねて、同じ福祉に従事する者として、悲しい事件をどう受け止め、その背後に見え隠れる課題は何か? 自問自答して参りたいと思います。

「ヤマユリ」の栽培に挑戦!

私達は、福祉工場「しんわルネッサンス」で、①球根 ②種子 ③鱗片からの3種類の方法でヤマユリの栽培に挑戦しました。その内、鱗片からの栽培は難しく上手く行きませんでした。球根の周りの鱗片を剥がして、植え込み育てましたが、残念ながら分解して土に返ってしまいました。一方、財団から譲り受けた5粒の球根は、2~4cmと小粒でしたが、4株は発芽に成功。蕾も授かり最終的に2株に3輪の花を咲かせました。以後、球根からの栽培は、4年連続で開花に成功しています。

また、種子からの栽培も一定の成果を得ました。採取した種子は、パーミキュライトという土壌改良剤で1年程育て、細かい根が出てからプランターに移します。翌春、小さく細長い幼葉が出



害虫の影響で穴が開き変形した蕾



開花不良ながらも美しく咲いたヤマユリ 2020年7月